

平成18年9月26日

「宮崎北安全運転管理者等協議会講演」

我が国及び宮崎県の金融経済動向について
— デフレからの脱却を目指して —

於:JA AZMホール

日本銀行 宮崎事務所長

宮崎県金融広報委員会副会長 松尾 隆

最近の全国の景気動向(図表1)

- フレを伴いながら、着実に回復・拡大(実質GDPの推移)
- 階段の踊り場(一進一退)から脱却<全国>
 - 一民間企業設備、消費支出の底堅さ
 - 一生産・所得・支出の好循環、地域的広がり
- 先行きの見通し
 - 一実質経済成長率 2%台半ば~2%程度の伸び(17年度3%)
 - 一息の長い回復継続、景気は成熟段階、徐々に減速(2%台前半)
 - 一潜在成長率は1%台後半まで回復

海外経済と生産等

- 米国経済と中国(東南アジア)経済の好調さ
- 輸出の伸びに支えられた生産
- 在庫の調整進展(情報技術関連の在庫循環)
- 業種間の非相関(息の長い景況の一因)

公共投資

- 公共工事の減少傾向
 - 地方の公共工事請負金額大幅減少
 - 公共事業依存型からの脱皮

企業の業況判断(図表2)

- 全国企業の業況判断は上向き
 - ①「製造業」は大企業・中小企業とも水面上
 - ②「非製造業(中小企業)」のみ水面下一業種間・規模間・地域間格差を伴いつつも
改善方向

上向きの背景(従来の3つの足枷の解消)

- ①過剰借入れ、②過剰設備、③過剰人員
- 一企業設備・雇用人員は不足方向へ変化

企業の設備・雇用・負債

- 負債比率の減少
 - 自己資本比率や資産収益率の上昇
- 設備投資は増加
 - 稼働率上昇、設備投資計画は高めのスタート
- 労働需給は改善傾向
 - 有効求人倍率の上昇、雇用者数の増加

企業収益・所得・個人消費・住宅投資(図表3~4)

- 企業収益の回復(数量効果、効率化、リストラ)
- 企業の手許現金(キャッシュフロー)の増大
- 正社員の増加・雇用所得の緩やかな回復
- 個人消費の着実な増加、住宅投資(貸家)の回復
 - 乗用車の国内需要(横這い)、景気の成熟化の影響(ユニット・レバー・コスト上昇)

(経済の先行きの前提)

- ①海外経済の拡大、②企業部門の好調持続、③家計部門への波及進展、④緩和的金融環境の後押し

物価の動向(図表5~6)

- 国際商品市況の上昇・高止まり(原油価格、非鉄)
- 国内企業物価の上昇
- 消費者物価の緩やかな上昇

(消費者物価指数前年比<全国、除<生鮮>)

18/7月 +0.2%(平成17年基準)[+0.6(平成12年基準)]

— プラス基調継続を予想

- 地価の上昇(大都市圏)

(物価を巡る環境)

- ①各種経営資源の稼動状況の高まり、②人件費コストのマイナス幅縮小、③物価上昇見通しの上方修正

金融政策と金利(1/2) (図表7~8)

- **デフレ不況の平成11年2月ゼロ金利政策を導入**
 - 銀行間市場の翌日物金利(無担保コールレート)を0%に誘導
 - 平成12年8月一旦ゼロ金利を解除(経済が再び悪化)
- **平成13年3月量的緩和政策をスタート(金融機関の手元資金量を目安)**
 - 日本銀行の当座預金(民間金融機関の資金決済口座):最大目標30兆~35兆円程度
 - 「消費者物価(全国、生鮮食品を除く)の前年比変動率が基調的にゼロ以上になるまで量的緩和政策を継続する」という約束
 - 平成17年入り後:日銀の国債買入れや手形買入れ時の札割れ(応札額が供給予定額に届かない状況)、金融システム不安の後退
 - 副作用:①利子収入減、②投資運用難、③短期市場取引減・機能低下
- **金融市場調節方針の変更(平成18年3月9日「量的緩和政策の解除」)**
 - (1) **調節の操作目標:日銀当座預金から無担保コールレート(オーバーナイト物)に変更(量から「金利」へ<普通の金融政策へ戻る・正常化>)**
 - 日銀当座預金残高(9/22日時点9兆円<所要準備額約6兆円>)

金融政策と金利(2/2) (図表8)

(2) 調節方針: 無担保コールレート(オーバーナイト物)を概ねゼロ%で推移するよう促す(ゼロ金利維持)

(3) 中長期的な物価安定の理解<委員>: 0~2%(中心値概ね1%前後)→今後ほぼ1年毎に点検(物価が安定していると考える数値の幅・目安導入)

- ・物価安定のもとでの、息の長い成長の実現に貢献。
- ・市場の安定化を図りながら景気の波をなるべく小さくして持続的な経済拡大実現。

● 金融市場調節方針の変更(平成18年7月14日「ゼロ金利政策の解除」)

— 無担保コールレート(オーバーナイト物)を0%→0.25%前後で推移するよう促す(誘導目標): 平成12年8月以来約6年振りの利上げ

— 基準貸付金利(補完貸付の適用金利<公定歩合>)を0.1%*→0.4%へ

- ・将来の経済・物価が大きく変動する可能性を回避。政策金利水準の調整は経済・物価情勢の変化に応じて徐々に行う。

* 平成13年9月19日

● 短期金利

— 無担保コールレートはゼロ近傍から、足元やや上昇し、安定(0.3~0.4%)

● 長期金利

— 1.7~1.9%程度で推移(6月入り後上昇し足元やや低下)

株価・為替

- 株 価

- 従来好調(世界経済拡大、企業収益好調、外国人投資家の投資姿勢)、5月中旬以降下落
- ライブドア・村上ファンドショックの影響(経済のファンダメンタルズは比較的しっかり)
- 夏場「グローバルな調整局面(世界的な株安)」(各国の金融引締め姿勢、不透明感<利益確定売りの動き>)、最近やや持直し(日経平均16~15千円)

- 為 替

- ドル高・円安方向(足元フレ<115円~117円/ドル>)

金融機関の貸出態度

- 企業の資金繰り判断
- 金融機関の貸出態度判断
 - 銀行貸出：前年比プラスへ
- 企業金融の多様化
 - 中小企業向けの新しい貸出手法

宮崎県経済の特徴

- 第一次産業のウェイト全国比大(農林・畜産)
- 消費支出・公的支出:ウェイト大
住宅投資・設備投資・移出:ウェイト小
- 食料品・繊維・木材・紙・化学・電気機械の出荷のウェイト大

南九州の業況判断(図表9)

—18年6月調査(宮崎・鹿児島両県集計)—

現状:「拮抗」状態、「良い超」縮小(前回1→今回0)

全産業	17/9月	12月	18/3月	6月
構成比%	▲5	3*	1	0

*平成8年5月調査(+1)以来9年7か月振りに「良い超」転化

▽景況感やや低下・加速感なし・回復テンポ緩やか

—製造業 :「良い超」幅縮小(9→6)

悪化:食料品、紙・パ 改善:電気機械、繊維

—非製造業:「悪い超」幅拡大(▲3→▲4)

悪化:建設、小売、運輸 改善:卸売、サービス、飲食・宿泊

主な「良い超」分野→食料品、窯業・土石、飲食・宿泊

主な「悪い超」分野→一般機械、建設、卸売、運輸

- 先行き:「悪い超」へ(0→▲1) 先行き依然慎重

- 製造業 :「良い超」幅拡大
良い超縮拡大:電気機械、紙・パ

- 非製造業 :「悪い超」幅拡大
悪い超拡大:建設、卸売、運輸

- 特 徴

- ①電気機械が持直し(受注増、不採算見直し)
- ②サービス、飲食・宿泊が改善(改装効果、ビジネス客)
- ③原油高・原材料価格上昇の影響(紙・パ、非鉄、運輸、電気・ガス)
- ④災害復旧工事の先細り意識(建設、リース)
 - 製造業から非製造業への波及遅れ
 - 「良い」減・「悪い」減で拮抗化

全国短観等との比較

(全国短観の特徴)

—全国は「短観改善。株安の影響小(景況感の2期振り改善)」

改善:輸出関連産業、一部内需関連 悪化:素材関連産業、小売、電気・ガス

—収益、設備投資、雇用(不足感)の強さ、借入金利上昇意識

・「息の長い景気拡大が続く」と評価(総裁)

(全国短観・九州短観等との対比) 全国との温度差

・業況判断D.I 全国+6↑、九州+2↓ *1年9か月振り悪化、両県0↓

九州地区 長崎▲10↓、那覇▲6↓、大分+5↓、熊本+7↑、福岡+8↑、北九州+12↓

高位 横浜15、名古屋14、北九州12、静岡11、神戸11、大阪10、

下位 高知▲36、釧路▲16、松江▲16、秋田▲15、札幌▲13、長崎▲10

・設備投資額(18年度計画) 全国+6%*(上方修正)、九州▲4%*、両県+7%

*6月として平成2年以来高い伸び

**4期振減少(反動減)

宮崎県の経済動向(図表10)

- ・ 消費・住宅等動向

- 百貨店・スーパーの競争激化、自動車販売、観光、住宅(分譲増)

- ・ 生産・雇用

- 生産活動活発化(食品製造・自動車・精密機械関連
堅調、電子部品・デバイス回復)
- 労働需給は緩やかに改善

- ・ 金融

- 預金:個人横這い
- 貸出:法人向け低調・個人向け堅調

今後のポイント

- ①原油価格の動向、米国・中国経済の先行き、在庫動向、企業の投資行動、所得・消費等への波及状況、物価動向
- ②量的緩和政策解除後の金利動向（預貸金利、調整時間）
- ③地域経済の活性化（格差拡大は成長力を阻害）、行財政改革の動向（財政の役割、国民生活を豊かにする設計）
- ④少子高齢化、環境問題、構造問題

（宮崎県経済の将来）

- ・原油高への対応 : 非鉄・運輸・農業・漁業への影響
- ・競合激化への対応 : 電機、食料品、建設、飲食・宿泊、卸売、サービス。企業間業績格差
- ・浮揚感への条件 : ①消費・観光・市街地の再生
②農業・食品・健康関連産業の集積
③企業誘致・出先企業との連携や知恵
④元気な企業の広がり

宮崎県の元気な中小企業のキーワード
—メッキ、自動車部品、精密機械メーカー等—

「よ」：余白、余地(すきま)

「か」：改善、改良、環境、簡素

「ぐ」：グローバル化

「ら」：来往、来診

・大企業に負けない技術力や市場開拓能力の醸成

— 宮崎に 元気を運ぶ 神楽舞い (隆)

終わりに

- 地域の特性を活かしながら日本経済の変化の芽を捉えた機敏な経営戦略の展開(地域の技術・サービス革新)
 - 地域格差、業種格差、企業格差、戦略の差
 - 宮崎の強みと弱み(失敗と成功の事例、市場メカニズム)
 - 統計データの整備・判断材料
- 賢明で元気な県民と社会
 - 未来を拓く人が育つ宮崎
 - パーソナル・ファイナンス教育(自立した個人としての「生きる力」を育む機会)
 - 地域で、自分で、何が出来るかを考える時代

日本銀行宮崎事務所の役割

(主な仕事の内容)

- ①宮崎県内全域での通貨の円滑な供給・流通
- ②金融経済動向に関する情報の収集・分析
- ③地域への情報の還元
- ④宮崎県金融広報委員会(事務局)の活動

(最近の具体的な施策)

—台風・大雨時の金融上の措置、月例記者会見開催、ホームページ開設、金融教育・広報活動、各種講演等

日本銀行宮崎事務所のホームページ

アドレス

(<http://www3.boj.or.jp/miyazaki>)

(日本銀行ホームページ→支店・事務所→宮崎事務所)

- 宮崎県金融経済概況
- 全国企業短期経済観測調査結果(鹿児島、宮崎両県集計分)
- 日本銀行宮崎事務所の紹介
- 寄稿・講演、案内
- いっちょがナビ(エッセイ等)
- 宮崎県金融広報委員会

金融広報中央委員会活動

- 17年度の活動

- 「金融教育元年」と位置づけ

- ①金融教育フェスティバル開催、全国公開授業

- ②児童・生徒への意識調査

- 18年度の活動

- 「みんなでつくる金融教育」をテーマ

- ①学校教育分野での基盤拡充(金融教育プログラム等)

- ②学校向け・市民向け両面でのネットワーク力の強化

- ③情報発信機能の拡充(HPリニューアル等)

- 「元気のいい宮崎」を支える(HP拡充、金融教育研究校サポート、全国キャラバン金融講座<11/25日>、県消費者教育連絡会等)

日向路に 安全誓う 星月夜 (隆)

以上